

令和 5 年 5 月 19 日現在

機関番号：14101

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K14151

研究課題名（和文）生活の視点からとらえる乳幼児の道徳性：倉橋惣三とノディングズの理論的検討

研究課題名（英文）The morality in the life of young children: From the perspective of the philosophy of Sozo Kurahashi and Noddings.

研究代表者

水津 幸恵 (Suizu, Sachie)

三重大学・教育学部・講師

研究者番号：30837331

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、倉橋惣三の保育思想とネル・ノディングズのケアリング論の理論的検討から、乳幼児期の道徳性をとらえる新たな視点を提起することを目的とした。研究の結果、乳幼児期を原則に基づく善悪判断の発達の前段階としてとらえる従来の見方に対して、人間理解の共感的なまなざしの中でケアリング関係を構築するという観点から道徳性をとらえることの必要性が見出された。そこで子ども同士の対人葛藤は、自発的な存在として互いを感じ合い共感的にかかわり合おうとするケアリング関係の構築に通じる出来事としてとらえられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、人間の道徳性を個人の資質や獲得する能力としてではなく、関係性の中で立ち現れることとしてとらえるという新たな視点を提起した。そしてその視点から、保育の場における子どもの対人葛藤をいかにとらえてかわるかにについて具体的に明らかにした。この研究の成果は、図書等にまとめるとともに、報告冊子を作成し、園の保育者や保護者、保育関係者に配布を行った。

研究成果の概要（英文）：The study proposes a new perspective on the morality of young children, based on the philosophy of Kurahashi and Noddings. As a result, it is possible to understand that morality comes from caring relationships, instead of the development of moral judgment. In other words, morality seems to be not an individual quality but being in relationships. In this context, peer conflicts are considered events constructing caring relationships instead of an opportunity for decentering and perspective-taking.

研究分野：保育学・幼児教育学

キーワード：乳幼児 道徳性 生活 倉橋惣三 ノディングズ ケアリング

1. 研究開始当初の背景

近年、道德教育の重要性が高まる中、小・中学校では教授的な道德教育を見直し「考え、議論する道德」への転換が進められている。一方、乳幼児期については、小・中学校との連続性の観点から、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以下、要領・指針）において道德性へと通ずる「道德性の芽生え」を培うことが位置付けられているが、ここ 20 年の改訂（定）においてその内容に大きな変化はみられない。そこで乳幼児期は、対人葛藤を通して他者の気持ちの推測的な理解を発達させ、自分の行動をコントロールできるようになることが重要とされている。そして、乳幼児期の子どもは道德性をこれから獲得する存在とされ、乳幼児期は道德性の獲得や発達の前段階として位置付けられている。

このような道德発達段階理論に対して、ケア論の立場から異なる道德観を提起したネル・ノディングズ (Nel Noddings, 1929-) のケアリング論がある。ノディングズは、道德性は認知発達に伴う他者感情推測や原則理解によって「段階」的に発達するものではなく、日々の「生活 (life)」における人間同士のかかわり合いの中で個別具体的な他者に対して愛や心の自然な傾向から応答的に行われるケアである「自然的ケアリング (natural caring)」を根源とすると考えた (Noddings, [1984] 2013; 2010)。つまり、ケアリング論において道德性は、段階的に獲得・発達する能力ではなく、日々の生活の個別具体的な関係の中で立ち現われてくるといえる。これに関して、わが国の「幼児教育の父」とも呼ばれる倉橋惣三 (1882-1955) も戦前からノディングズと同様の議論を既に行っていた (水津, 2017; 2018)。倉橋の保育思想は、大人主導の教授的な指導から子どもの自発性を重視する保育へと転回した平成元年の要領・指針の改訂の論拠の一つとなった一方で、「道德性の芽生え」に関してはその思想は見受けられず、倉橋の保育思想における道德教育観とそれと共通性をもつノディングズのケアリング論は「道德性の芽生え」に対して新たな視点を提起し、現在の乳幼児期における道德性のとらえ方の転換へと通ずる可能性をもつと考え、本研究を行うこととした。

2. 研究の目的

本研究では、ケア論の立場から「段階 (stage)」ではなく「生活 (life)」において道德性をとらえるネル・ノディングズのケアリング論および倉橋惣三の保育思想に着目し、日々の生活における他者とのかかわり合いの中で立ち現われる乳幼児期の道德性をとらえる新たな視点を提起することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 倉橋惣三の思想およびケアリング論の理論的研究

まず、倉橋惣三の保育思想においては、倉橋が道德教育をどのように考えていたのかについて、倉橋の著書の内容分析を行った。次に、倉橋の保育思想における道德教育観とノディングズのケアリング論の共通性を見出した。具体的には、まずノディングズの主要著書 “Caring: A Relational Approach to Ethics and Moral Education” (初版 1984, 第 3 版 2013) および近著 “Maternal Factor” (2010) の原著の精読を中心とした検討を通して、ノディングズのケアリング論について明らかにした。その結果を倉橋の保育思想における道德教育観と照らし合わせ、共通性を見出し整理した。

(2) 子ども同士の対人葛藤のエピソード研究

「道德性の芽生え」においてその発達の契機とされる子ども同士の対人葛藤に着目し、子どもが他者とぶつかることの意味をエピソード研究によって明らかにした。具体的には、幼稚園にて収集した対人葛藤のエピソードについて、(1) の理論的研究を視座として考察した。

4. 研究成果

(1) 倉橋惣三の思想およびケアリング論の理論的研究

まず、倉橋惣三の保育思想において、倉橋は道德教育に対して、何が道德的であるのかを教えるような教育は真の自然な体験を壊してしまうとして、徳目を前提とする修身教育のような教授的な道德教育に一貫して疑義を投げかけ、日々の生活の中で沸き起こってくる情感を重視していた。そして、戦後に執筆された連載「人間性の涵養」において、他者を人間として感じ、共感的にかかわり合って生きるという「人間性」を涵養することの必要性を説いていた。つま

り、要領・指針における「道德性の芽生え」は対人葛藤等を経験することを通して道德判断の前段階となる他者の意図理解や他者視点取得を獲得することであるのに対して、倉橋は人とかかわり合ううれしさを重ねることを通して他者を人間として大切にしようとする情感が沸き起こってくることを重視していたと考えられた。

次に、倉橋の保育思想における道德教育観とノディングズのケアリング論の共通性として、両者とも原則に基づく道德や個体能力主義的な道德判断の発達段階理論とは異なる人間観に立ち、「生活」における個別具体的なかかわり合いによって構築されるケアリング関係の中で人間性が涵養されると考えていることが見出された。そして、子どもを“よくなるう”としている存在として信じ、他者を対象として客観的に判断や分析、操作をしようとするのを慎重に避けていた。それは、ノディングズでいえばすぐには理解できない行為に対して現実において得る限りで最良の動機を知ろうと「確証」することであり、倉橋でいえば子どもがすでにもつよさへと向かう「芽」をていねいに見取って「芽」のまま重んじ、行動の良否ではなくその心もちを感じようとすることによってなされるものであった。

(2) 子ども同士の対人葛藤のエピソード研究

子ども同士の対人葛藤のエピソードの考察から、まず、対人葛藤は「自発性」の現れであると考えられた。具体的には、他者に受け入れられないかもしれないことによって傷つくことから自分を守ろうとすることやリードされる関係から自分を取り戻そうとすること、また関係の深まりの中で自身の不満を訴えられるようになってきたことやつながりを確かめたいがゆえのかかわりが自発的に生きる相手の思いとぶつかることによって、子ども同士の葛藤は生じていた。つまり、対人葛藤は未発達ゆえに生じるというよりも、自発性を有する人間が他者との関係の中での自己のありようを探求する中で起きてくる、自発的な存在として互いを感じ合う出来事であると考えられた。

次に、ぶつかり合う子どもたちに対して、保育者は善悪判断的なまなざしを崩し、子どもの心もちを感じ取ろうとする共感的なまなざしでかかわっていた。それによって、簡単には価値の決着がつけられない曖昧な状況の中で、原則に基づく良否ではなく相手を知ろうとすることがかかわり合いが子どもたちのあいだに生まれていた。そしてそれは子ども同士で行われるようになっていった。具体的には、他児の対人葛藤に対して、どちらが良いか悪いかを判断しようとするのではなく、何に苦しみ何を必要としているのかを知ろうとし、それをケアしようとするかかわりがみられた。

5. まとめ：倉橋惣三の思想およびケアリング論からみる対人葛藤と道德性

倉橋の保育思想とケアリング論を視点としたとき、まず、子ども同士の対人葛藤は、自発的な存在として互いを感じ合う出来事であり、それは他者を人間として感じ、共感的にかかわり合おうとするケアリング関係の構築に通じると考えられた。ここで共感とは、個別具体的な他者自身を知ろうとする共感であり、それは子どもの対人葛藤において保育者が、目に見える子どもの行動の良否ではなく、倉橋のいう子どもの「心もち」を感じ取ろうとするという人間理解の共感的なまなざしの中で現れていた。そして、この保育者のまなざしは、ノディングズのいう「確証」と通ずるものであり、その中で子どもたちの間においても他者を共感的に知ろうとケアしケアされるかかわり合いが生活の中で現れてきたと考えられた。

以上のことから、ケア論から乳幼児の道德性をとらえると、原則に基づく善悪判断の発達を促すのではなく、人間理解の共感的なまなざしの中でケアリング関係を構築することの必要性が見出される。また、善悪判断の発達の前段階としての「道德性の芽生え」に対し、倉橋のいう「芽」は、子どもがすでにもつ、見落とされやすいよさやその心もちを見取り、かつそれ以上の道徳的な行動を急いで求めるのではなくその「芽」のまま重んじるといった保育者の姿勢を表すものととらえられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 水津幸恵	4. 巻 10
2. 論文標題 書評 倉橋燿子・倉橋麻生著『倉橋惣三物語 上皇さまの教育係 』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 お茶の水女子大学子ども学研究紀要	6. 最初と最後の頁 109-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 久保健太・横山草介・山本一成・水津幸恵・浜口順子	4. 巻 127
2. 論文標題 倉橋の思想は今、どのような意味をもつのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 幼児の教育	6. 最初と最後の頁 4-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Suizu, S.
2. 発表標題 Can We See Morality in 'Life' of Young Children? From the Perspective of Care Ethics
3. 学会等名 21st Pacific Early Childhood Education Research Association International Conference (PECERA 2020) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Suizu, S.
2. 発表標題 Regarding Children as Subjective Agents from the Perspective of Sozo Kurahashi 's Philosophy: Focusing on Peer Conflicts among Young Children
3. 学会等名 OMEF Asia Pacific Regional Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水津幸恵
2. 発表標題 子どもの生活世界における偶発性：他者との葛藤が和らいでいくプロセスに着目して
3. 学会等名 共創学会第3回年次大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 監修 汐見稔幸、監修・編著 大豆生田啓友、編著 岩田恵子・久保健太、著者 水津幸恵・石川美和・中村博・安松夏威・大崎志保・宮本雄太・宮田まり子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 226
3. 書名 アクティベート保育学8 保育内容「人間関係」（担当：第4章人とのかかわりの発達）	

1. 著者名 水津幸恵	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 208
3. 書名 保育の場における子どもの対人葛藤 人間理解の共感的まなざしの中で	

1. 著者名 編者 佐藤貴宣・栗田季佳、著者 水津幸恵・原田琢也・村田観弥・前田拓也・坂井田瑠衣・渡邊芳之・浦野茂・打浪文子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ちとせプレス	5. 総ページ数 384
3. 書名 障害理解のリフレクション 行為と言葉が描く、他者 と共にある世界（担当：第1章「障害」をいったん横におくということ 保育の場でのある子どもの対人葛藤から）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

成果報告冊子『葛藤する子どもへのまなざし その心もちを感じて』（2022年，32頁）

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------